

「主を恐れることの祝福:知恵」

申命記 31:9～13

2016.01.31 Alex Tan

1

概観

モーセが亡くなる前に、七年の終わりごとに、仮庵の祭りに、律法を読み聞かせるように定められた。律法は旧約聖書の各ジャンルの中の中心である。

アウトライン

1. 主を恐れることの意味: 神の主権を認める
2. 主を恐れることの方法: 神の言を守り行う
3. 主を恐れることの方法: 神の知恵を戴く
4. 適用

2

1. 主を恐れることの意味: 神の主権を認める

- 1) 男のみならず、女も、子供も、外国人も御言葉を学ぶ必要がある。神様の恵みを忘れないために、信仰の継承はとても大事な事。
- 2) 特に国を率いる王様に対する要求は国民より高い。自分の手元に置き、一生の間学びつづけなければならない(申命記 17:18-20)。
- 3) モーセによって定められたこのおきては、捕囚帰還後、祭司エズラによって強化された(ネヘミヤ 8:1-3)。生活の中で律法に立ち返り、御言葉の権威に従って生きていく。

3

2. 主を恐れることの方法: 神の言を守り行う

- 1) **歴史書**: エリコに入る前に、神様は軍事作戦などを教示せず、律法を守り行い、御言葉を口ずさむことが強調された(ヨシュア1:7-9)。
- 2) 人間は御言葉から反れやすい。どこでも栄えるために御言葉が必要である。
- 3) **預言書**: イスラエルは律法に背いてた:
 - ① **偶像礼拝**: 異国の神や偶像を礼拝する。
 - ② **社会的な不正**: 金持ち-貧しい人との関係。
 - ③ **儀式主義**: 人格的な交わりを抜きに神殿でいけにえを捧げる(イザヤ1:10-11)。

4

3. 主を恐れることの方法: 神の知恵を戴く

- 1) **詩篇**: 悪者のはかりごとや罪人の道に立たないために、知恵が必要。神様をあざけけないために御言葉が必要(詩篇1:1)。
- 2) 主の教えを喜びとする人は、水路のそばに植わった木のように、何をしても栄えると約束されている(詩篇1:2-3)。
- 3) **箴言**: 「主を恐れることは知識の初めである。愚か者は知恵と訓戒をさげすむ」(箴言1:7)。知恵≠「生活の知恵」。神様の前に正しく歩む者に与えられるもの。

5

4. 適用

① 聖霊と御言葉で人生を満たすように

聖霊 + 聖書のコンビで、創世記1:1-3にあるように、新しい命が創られ、心が作り変えられていく。聖書の価値観でゴスペルライフスタイルを生きるように。

② 全知で生ける言葉(イエス様)に従うように

御言葉は生きていて、力があり、はかりごとを判別するのに役立つ。神を恐れ、全知の神の前で隠さず、ありのままにさらけ出していく(ヘブル4:12-13)。

6